

ユースサッカー選手の心理的競技能力についての研究

A study of psychological competitive ability for youth football players

1K06B164

指導教員 主査 堀野博幸先生

中村 匠

副査 広瀬統一先生

．目的

近年，スポーツ界において選手の心理面の強さ 精神力の強さが重要視されるようになった．サッカーにおいても，心理的な強さは他のスポーツと同様に重要である．徳永（1988）は，試合場面で必要な心理的能力を「心理的競技能力」と呼び 心理的競技能力の診断方法を作成した．「心理的競技能力診断検査」は，心理的能力とパフォーマンスに関する研究に広く用いられているが，ユースサッカー選手を対象としたものは少なく，また心理的競技能力の獲得過程に触れられているものも少ない．そこで，本研究では心理的競技能力の獲得過程と，どのような選手が高い心理的競技能力を持っているのかを明らかにし，心理的競技能力の効果的なトレーニングについて方向性を検討することを目的とする．

．方法

1. 調査対象

高校1年生から3年生の高校サッカー部または地域のサッカークラブに所属している生徒（以下選手群）と，高校1年生から3年生の生徒で過去に1年以上継続してスポーツクラブまたは部活等におけるスポーツ経験がない生徒（以下一般群）計90名にアンケート調査を行った．選手群は 競技年数が8年より長い者を長期群，8年以下の者を短期群に分けた，また競技年数と関係なく，選手群を所属クラブの性質によりクラブチームでサッカーを行っている者をクラブ群，高等学校の部活でサッカーを行っている

者を部活群に分けて選手群と一般群，長期群と短期群，クラブ群と部活群の間で分析を行った．有効回答数は86.7%の78名だった．

2. 調査内容

心理的な競技能力を調べるために心理的競技能力診断検査(徳永，2001)と性格特性を調べるためにBig Five尺度(和田，1998)を使用した．

．結果

1. 心理的競技能力について

選手群は一般群と比較し，精神の安定・集中因子以外の競技意欲因子，自信因子，作戦能力因子，協調性因子において有意に高かった．クラブ群は部活群と比較して競技意欲因子において有意に高かった．長期群は短期群と比較し，競技意欲因子，自信因子，作戦能力因子，協調性因子で有意に高かった．

2. 心理的競技能力と性格特性の関連について

外向性尺度は，競技意欲因子と協調性因子において，情緒不安定性尺度は，精神の安定・集中因子において，開放性尺度は，競技意欲因子と自信因子，作戦能力因子において中程度の相関が見られた．

．考察

心理的競技能力は，一般的なトレーニングによって競技意欲，自信，作戦能力，協調性において向上が見込まれるが十分ではなく，精神の安定・集中は一般的なトレーニングによる向上が見込まれないので，専門的なトレーニングをする必要がある．そして選手の性格特性が心理

的競技能力に関連している可能性が見られた。特に外向性、開放性は関連が他の因子より強く、選手の好奇心や積極性を考えたトレーニングが効果的であると考えられる。また長期的に競技を行っている選手よりも、経験が浅い選手のほうが性格特性と心理的競技能力の関連が強い傾向にあることから、経験の浅い選手の性格特性を考えたトレーニングを展開するほうが効果的であると考えられる。